
外道から人へ.....人から武将へ

wawawa

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

外道から人へ……人から武将へ

【Nコード】

N6945V

【作者名】

w a w a w a

【あらすじ】

ここは、恋姫十無双の世界。強き者は全て女。そんな世界の中、天の御遣いと呼ばれる青年と、自らを外道と呼ぶ青年。その二人の男。二人の異端によって、物語は大きく書き換えられる。

第一話 生い立ち(前書き)

この小説は不定期更新です。

リアルが忙しいのに、つい、現実逃避で妄想をしてしまい、
どうしようもなかったなので、書き始めました。

こんなんでもよかったら、温かい目で見てください。

第一話 生い立ち

「おんやあ、秋翔あきとちゃんじゃないか、
また、猪を捕まえたのかい？すごいねえ。」

「ああ、おばさん。こんにちは。後、ちゃん呼ばわりは、止めてくれよ。」

「これでも男なんだからさ。」

そう答えたのは、わずから才の少年。
幼いため、見ようと思っただら女には見えるだろう。

「いやいや、男の子でそれだけ強い子はそうそういないからねえ……
つつつい、女の子と間違えてしまうもんだよ。」
そう答えたのは、近所のおばさんだ。
孫のように自分を可愛がってくれている。

「いやいや……確かに猪とか担げるけど、全部、罾で捕らえてるか
ら。」
それに……男でも多少、強い人はいるもんだよ
関兄ちゃんとか……」

「そうだねえ……それじゃあ、関さんによろしく。」

「はいはい、わかったよ。」

おばさんが関さんと呼ぶのは、愛紗のお兄さん。
愛紗とは同じ年だが、お兄さんは歳が離れていて、
お兄さんは20才くらいだ。

ちなみに関さんとは血は繋がっていない。

自分の名前は姓は伊、名は籍、字は機伯。真名は秋翔だ。

関さんは、前に山賊が来たときに、村人の皆を指揮して、
追い払ったため、皆、敬意を持って、名字の関を呼んでいる。

自分も関さんに助けられた身なので、早くお手伝いが出るように、
修行をしている……

ただ……女の人とは、差がありすぎるので、
氣を重点的に磨いて、肉体の差を少しずつ埋めている。
というのも、関さんが、元々、氣で肉体を強化するのに、
長けているから、良い見本があるわけだけ……
今だに、氣での肉体強化は氣を使いすぎるので、
それほど長時間は使えない。

「関屋さん、ただいまー」

「おっ、噂をすれば、だな。今日は猪か……よくやったな」
そういつて、関さんが頭を撫でる。
自分にとって、お父さんみたいな、
立場のお兄さんに褒められると嬉しい。

「それで、何の話をしていたの？」
見渡せば、警備隊の人達が居た。

「ああ、また、賊が来たときのためにな、
お前の罫を村の周りに仕掛けて欲しいんだ。」

「ああ、なるほど……関兄さんの頼みだし、村の人の為になるもん
ね。」

「わかったよ、それで、どういう風に仕掛けるの？」
「このところ、この村は賊に狙われやすい。
何故なら、漢王朝が腐敗してきたことで、
税を高くする、悪い人達が増えたことで、
食べ物が無くなり、賊になる人が増えたからだ。」

「ああ、村の周りをぐるつとな。前門と後門には仕掛けなくて良い。
矢とかで対処できるからな。」

「分かったよ。さすがに、一ヶ月はかかるけどそれでいいかな？」

「ああ、十分だ。材料で足りない物があれば言ってくれ。揃えるか
」

「分かった。それで愛紗ちゃんは？」

今日は一緒にお勉強のはずなんだけど……」

「ああ……それが……暇だ、とか言っつて、収穫の手伝いをしていてな。」

「分かったよ……それじゃあ、罾の設置箇所を決めるから、書く物を貸してください。」

「すまないな……なにしろ、山賊が増えて、警備の者が増えたからな。」

「どこもかしこも、人手が足りないんだ。」

「しかたないよ、村を守るためなんだし……それじゃあ、部屋に籠もるから。」

「絶対に！……入らないでくださいよ？」

「分かってる。それじゃあ、訓練をするんで、俺も出てくるから、せつかく持ってきてくれたんだが、」

「猪は、俺がおばさんの所に持って行くから。それじゃ。」

「はい、いつてらっしゃい、関兄さん」

（今日は関兄さんの手料理を食べられる筈だったんだけどなあ……

まあ、おばさんの料理が不味いわけでもないし、

次の機会に美味しい料理、作ってもらおうかな……）

〈自室〉

自分が絶対に入らないでくれって、言ったのには訳がある。それは、何故か自分は前世の記憶があるからだ。有るはずもない罫の知識や、剣術などの殺人術。料理の知識など、豊富な知識がそのためにある。

だから、もし、前世の記憶を思い出すために、ぶつぶつ言っているのを聞かれる訳にはいかない。前世の自分は殺し屋だったみたいで、かなり物騒だからだ。

……まあ、今の時代、かなり役に立つものだけ……
それでも、なんか嫌だ。
出来れば、人殺しなんて、したくないしね……

〈愛紗〉

ようやく収穫が終わって家に帰ったら、なんと兄さんは警備の強化の為に料理が作れないし、秋翔も罫の設計で、料理が作れない……
つまり、またおばさんの料理か……

味が悪いわけではないけど……
なんと言うか……豪快なんだ……
猪となると、今夜は鍋になるな……
おばさんの料理なら、確実に猪の足を鍋に突っ込んだ料理だ。
……不思議と不味く無いが、なんか嫌だ。

そついうわけで、気晴らしに秋翔の部屋に突撃する。
自室に入られるのを嫌がるからこそ面白い。
ほどほどにしておかないと後が恐いから、
本気で怒る前に、退散はさせてもらうけど。

「秋翔！今からおばさん家に行って、猪を取り返しに……あれ？」
扉をバンツ！と開けて中に入ると蛻の空だった。
よく見ると、机に何か置いてある。

「なになに？」

「愛紗の考えはお見通し、大人しくおばさんの料理で我慢してく
れ」

「だって！……秋翔、後で覚えておきなさい！」

「稽古で兄さんの前で恥じかかせてやるんだから！」

第一話 生い立ち（後書き）

愛紗は、あの事件で、大人に成らざるを得なかった設定で。

あと、関羽の兄さんはアニメでも名前でもなかったんで名字の関で堪えて下さい。

主人公は強さ的には、一般人より強くて、

関羽みたいな天才より弱い感じです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6945v/>

外道から人へ.....人から武将へ

2011年10月8日20時54分発行